ウマヅラハギ
日本海・東シナ海系群
令和５年度資源評価結果

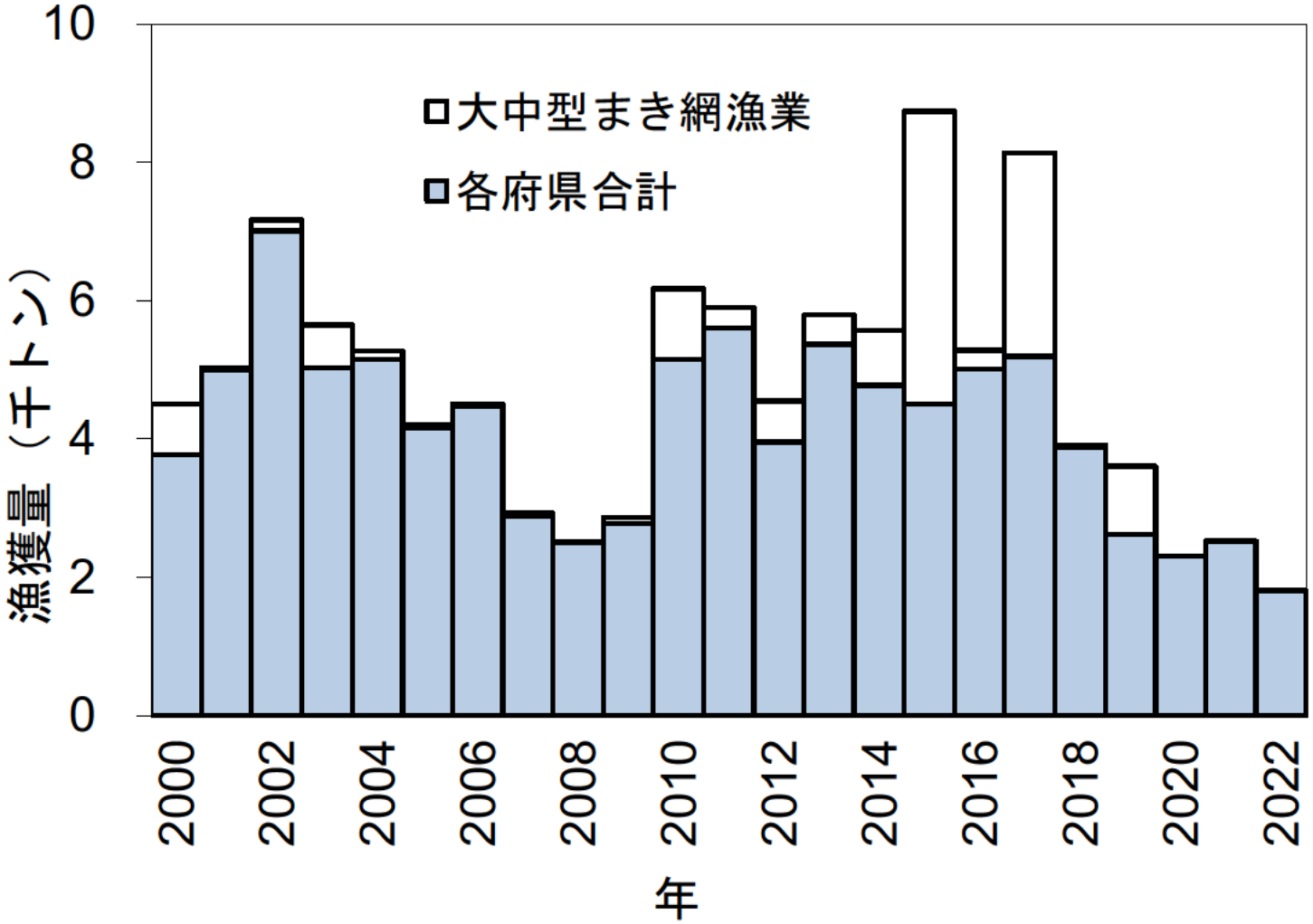
生物学的特性

生物学的特性

- 寿命：10歳
- 成熟開始年齢：筑前海で雌雄ともに1歳（率不明）、新潟県沿岸の雌で1歳（率不明）、東シナ海の雌で2歳（率不明）、3歳（53%）、4歳（90～100%）
- 産卵期・産卵場：東シナ海域では4～6月、日本沿岸では5～7月
- 食性：カイアシ類、貝類、エビ・カニ類、魚類、ヨコエビ類、ウニ類、ヒトデ類、ヒドロ虫類、鉢クラゲ類、石灰藻を含む紅藻類および珪藻類
- 捕食者：魚類、頭足類等

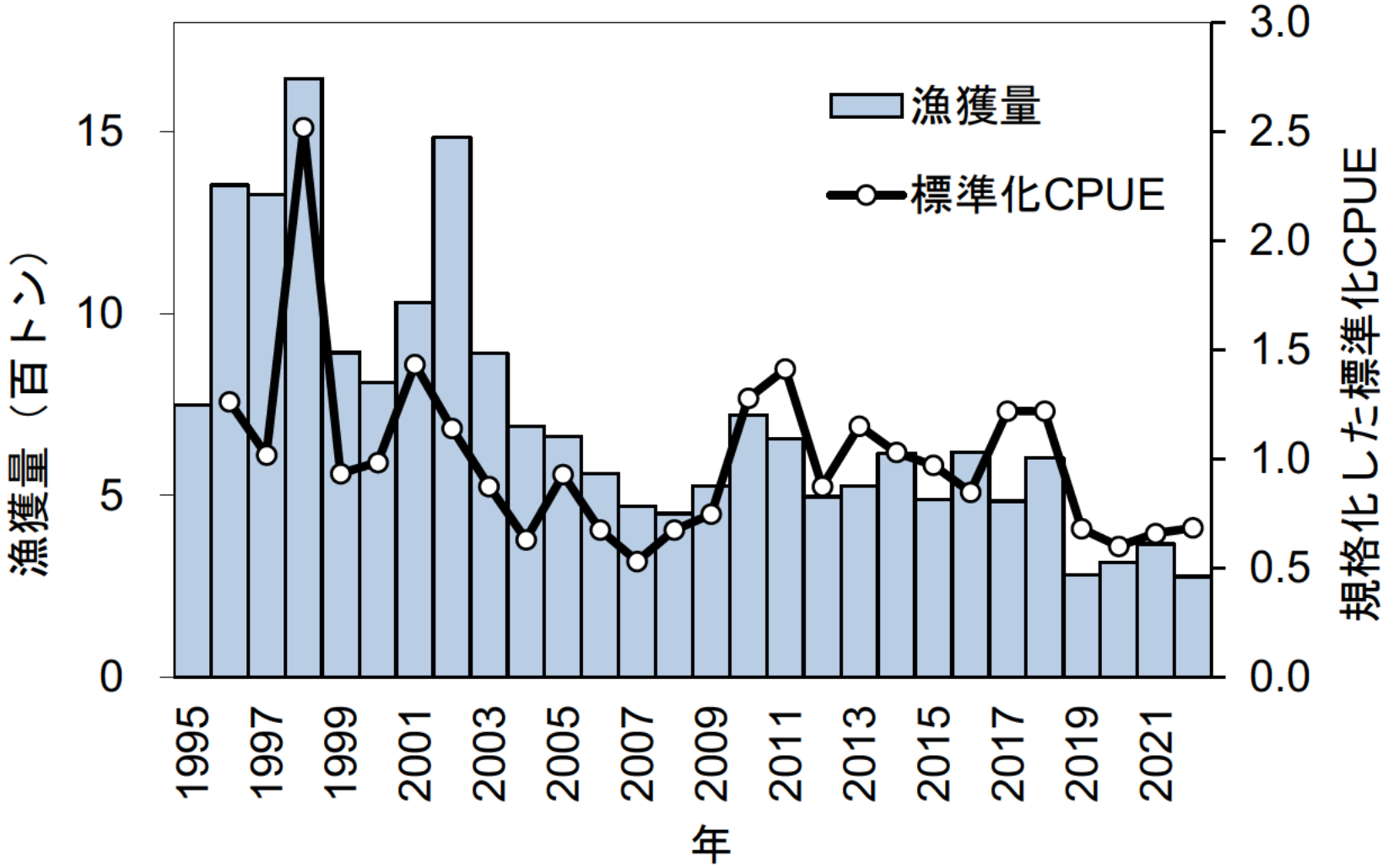
- 我が国周辺および東シナ海、黄海に分布
- 海域により成長が異なる

漁獲の動向①



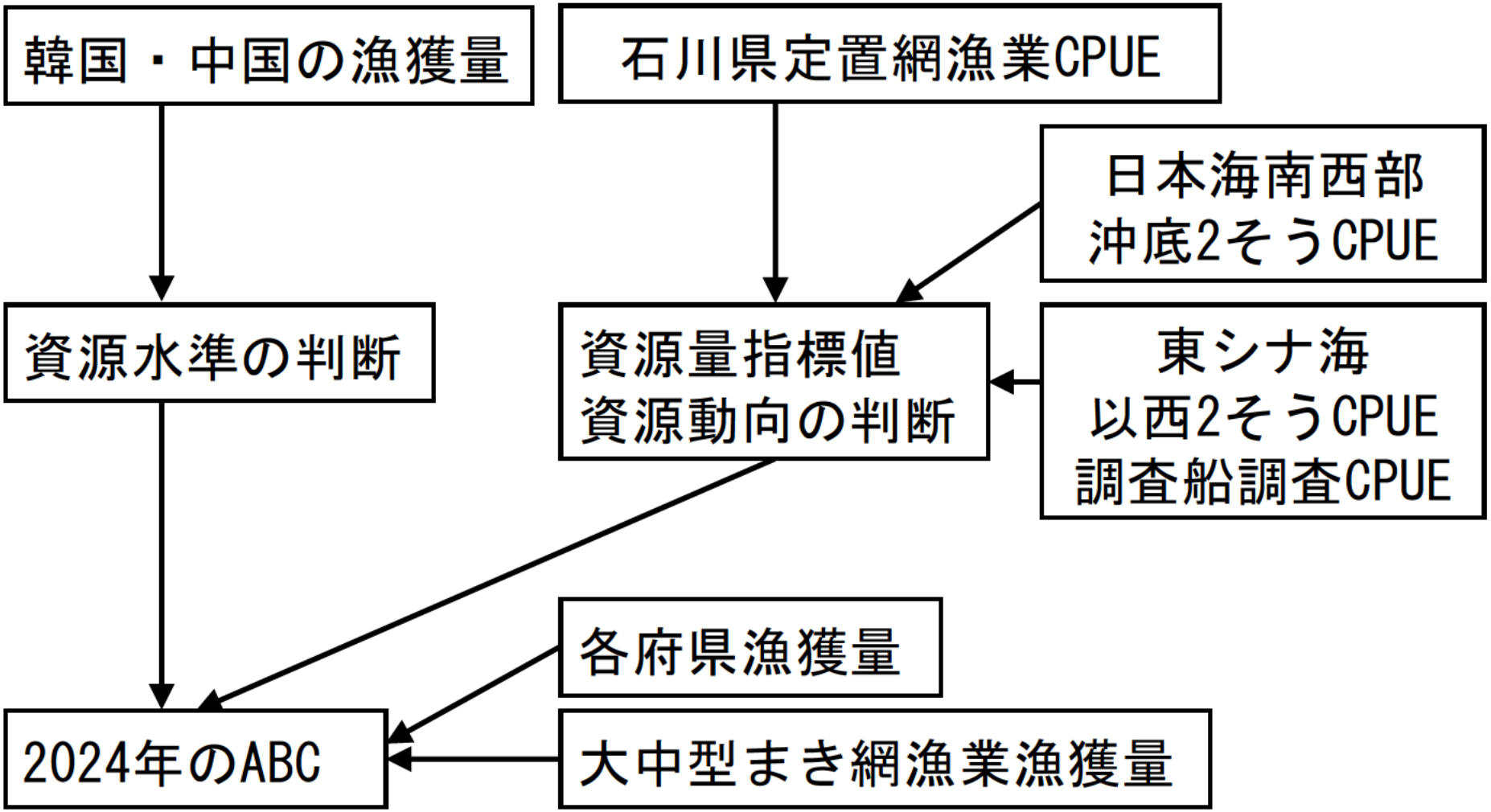
- 2018年以降の各府県漁獲量は減少傾向
- 大中型まき網漁業の水揚げ量は年変動が大きい
- 2022年の漁獲量：1,809トン

漁獲の動向②

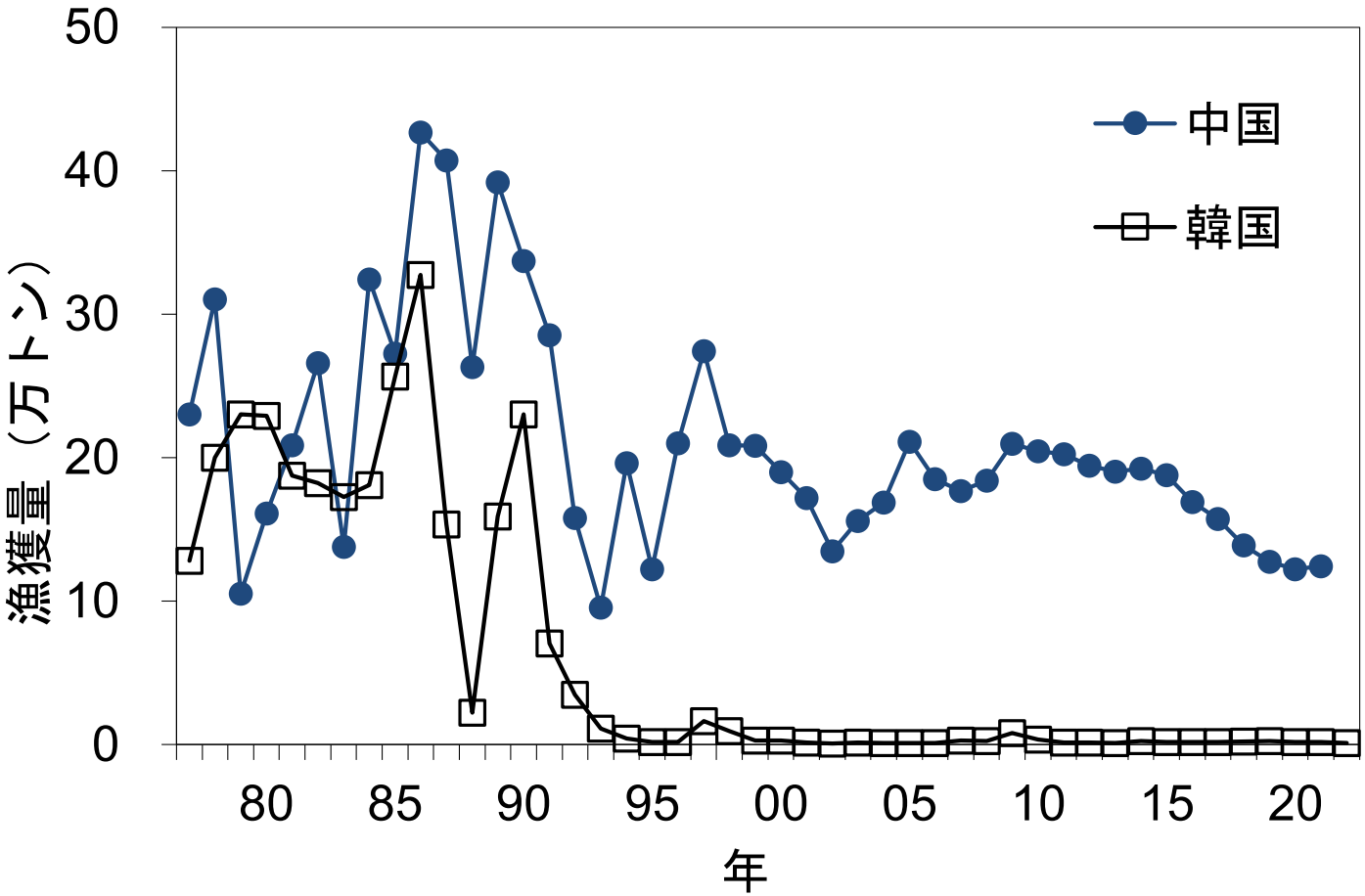


- 石川県における定置網漁業の漁獲量と単位努力量あたりの漁獲量（CPUE）
- 1998年以降、漁獲量とCPUEともに緩やかに減少

資源評価の流れ

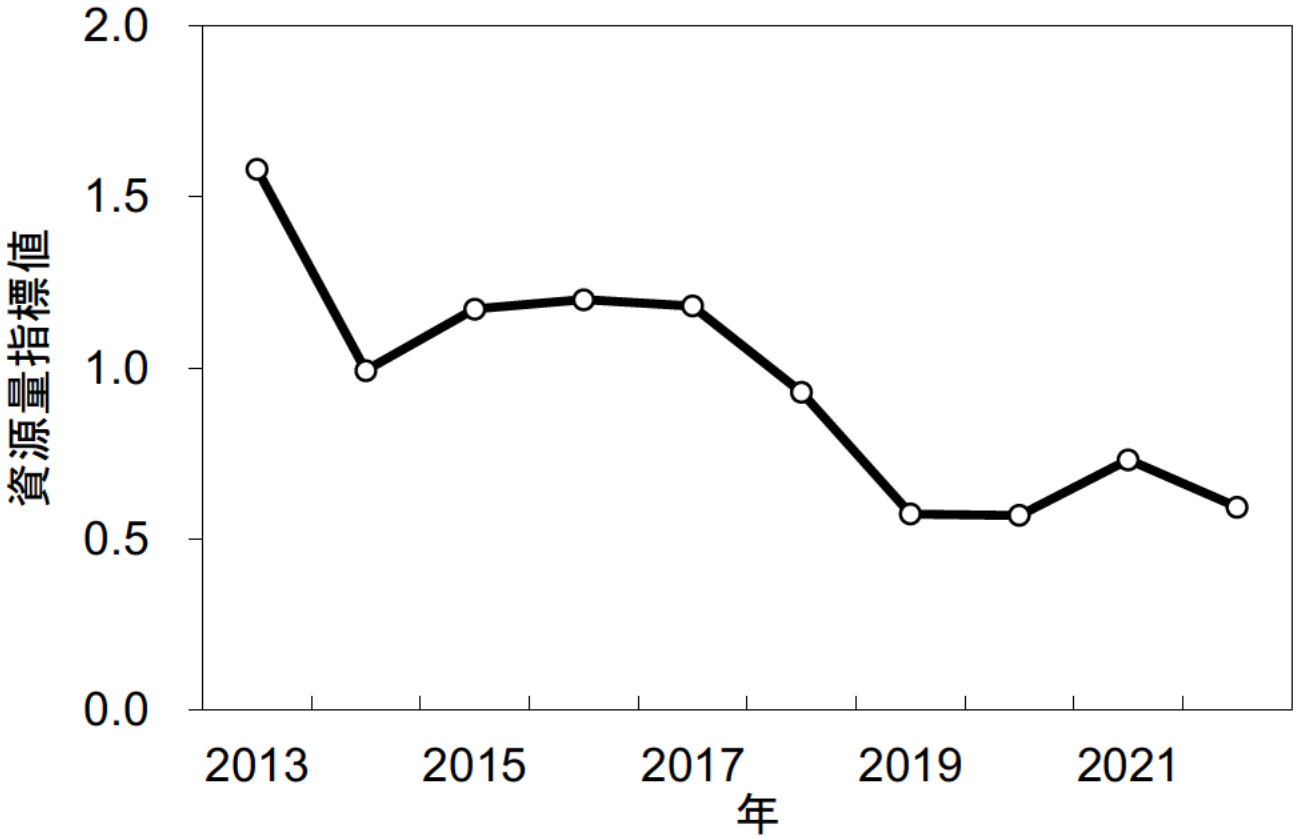

韓国・中国の漁獲量
石川県定置網漁業CPUE
日本海南西部
沖底2そうCPUE
資源水準の判断
資源量指標値
資源動向の判断
東シナ海
以西2そうCPUE
調査船調査CPUE
各府県漁獲量
2024年のABC
大中型まき網漁業漁獲量

資源の動向①



- 1986年のカワハギ類漁獲量は中国と韓国合わせて75万トン
- 1992年以降低い水準で推移
- 資源水準：2022年の韓国と中国における漁獲量の水準から「低位」

資源の動向②



- 資源量指標値：石川県における定置網漁業CPUEと日本海南西部の沖合底びき網CPUEおよび東シナ海の以西底びき網と調査船CPUEの相乗平均から算出
- 資源動向：直近5年間（2018～2022年）の資源量指標値の推移から「減少」

資源評価のまとめ

- ウマヅラハギ日本海・東シナ海系群の資源水準は「低位」、動向は「減少」
- 漁獲量および標準化CPUEに基づいて資源状態を判断

2024年ABC

管理基準	Target/Limit	2024年ABC（百トン）	漁獲割合（%）	F値（現状のF値からの増減%）
0.7・Cave3-yr・1.02	Target	13	—	—
	Limit	16	—	—

- ABC算定規則の2-1）により、ABClimit=δ_1・Cave3-yr・γ_1で計算
- δ_1：0.7（低位水準で平均漁獲量使用時の推奨値）
- Cave3-yr：直近3年間（2020～2022年）の平均漁獲量
- γ_1：1.02（直近3年間の資源量指標値の傾きと平均値より算出）